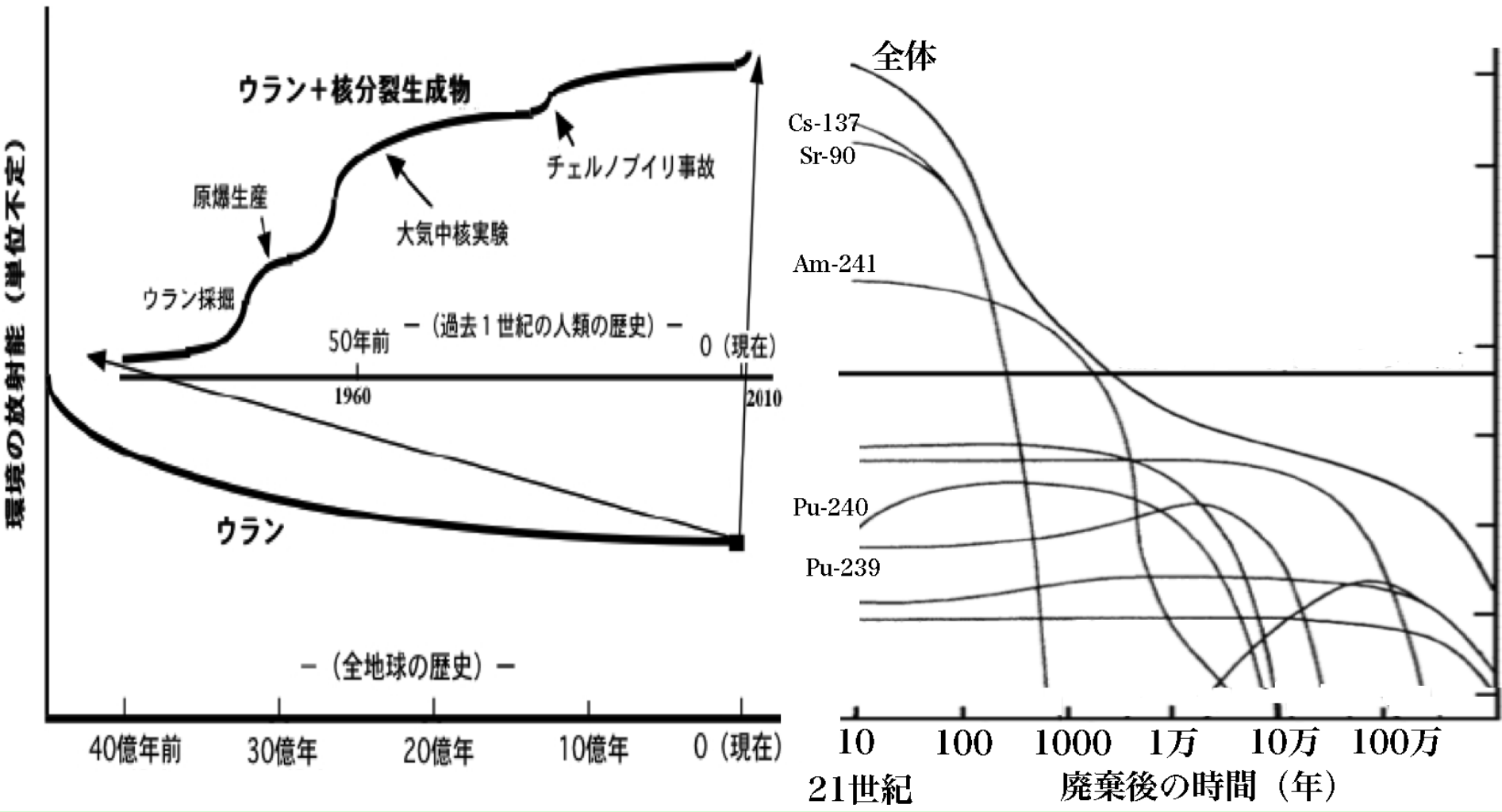


地球上にばらまいてしまった
放射性物質による放射線量は、
今後どう変化するのか。

いつになったら安全な地球
に回復するのか？

人間がつくり出した放射性物質が消滅するには (U-235を核燃料として燃やし、それを廃棄したとして)



癌死亡率とウラン採掘量

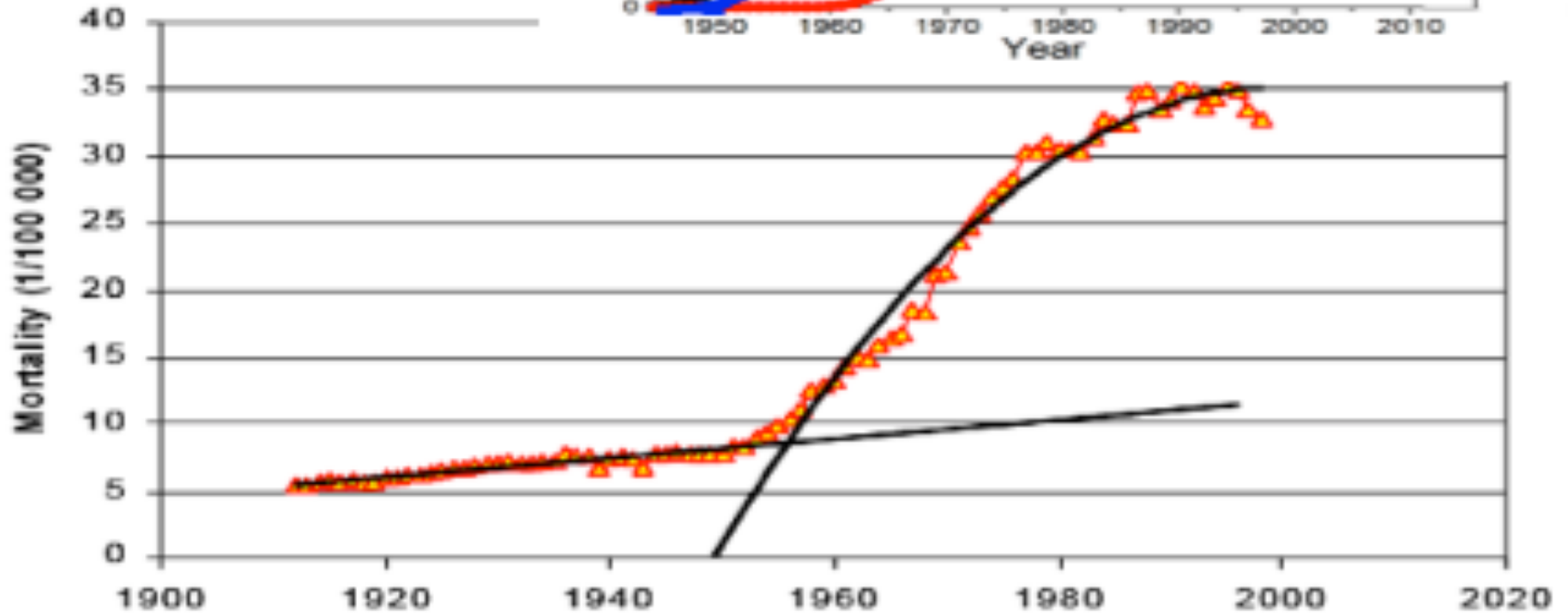
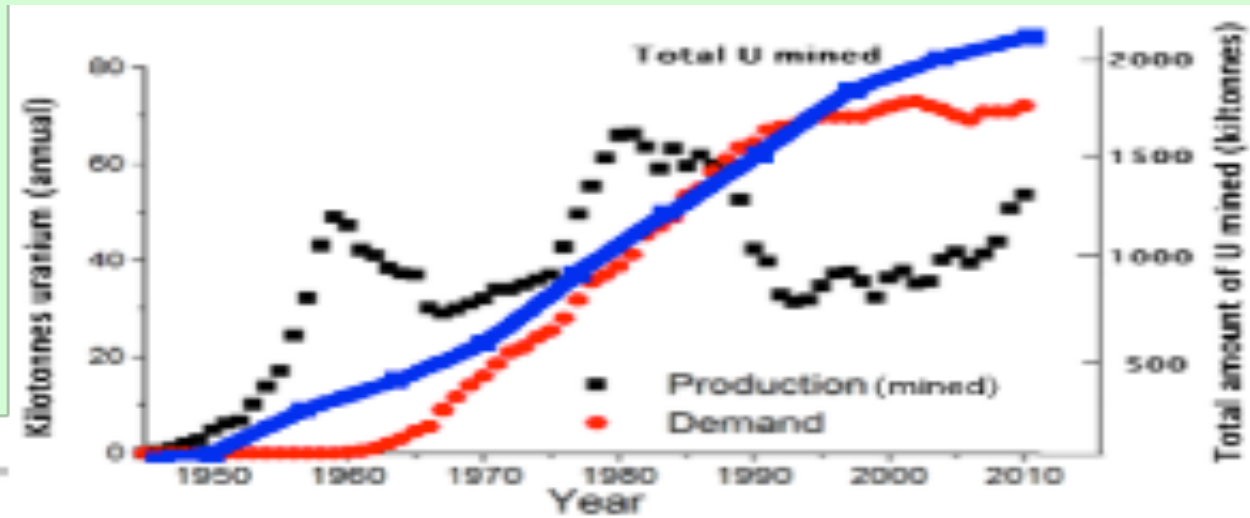


Figure 4. Lung cancer death rates in Sweden.

Atomic bomb & Nuclear power plant

原爆と

—放射能は生命と相容れない—

落合栄一郎

原発

原爆・原発は
人類の過ち、
全廃に向けて
猶予は許されない！

鹿砦社

この本の
表題が
核問題
の全てを
表現

(鹿砦社
2012年発行)

こんなことは核開発者は意識していた

核開発者の1人Enrico Fermiは1940年に:

“Otto Frisch and Rudolf Pierls described in a three-page paper how uranium-235 could be assembled into a critical mass producing an atomic explosion. They noted: In addition to the destructive effects of the explosion itself, the whole material of the bomb would be transformed into a highly radioactive state. The energy radiated by these active substances will amount to about 20 percent of the energy liberated in the explosion, and the radiations would be fatal to living beings even a long time after the explosion.”

E.F. シューマツハー

「スモール イズ ビューティフル」

(1973より)

人間が、自然界に加えた変化の中で、もっとも危険で深刻なものは、大規模な原子核分裂である。核分裂の結果、電離放射能が環境汚染の極めて重大な原因となり、人類の生存を脅かすことになった。一般の人たちが原子爆弾のほうに注意を奪われるのほうなづけるが、それが将来2度と使われないという希望はまだ持てる。ところが、いわゆる原子力の平和利用が人類に及ぼす危険のほうが、はるかに大きいかもしれないのである。今日の経済性最優先のこれ以上明白な例はあるまい。

E.F. シューマツハー

「スモール イズ ビューティフル」

(1973より) つづき

* 放射性物質は、いったん造ったが最後、その放射能を減らす手だてがまったくなくということである。それにしても、原子炉から出る大量の放射性廃棄物の安全な捨て場所とは、一体どこであろうか。地球上に安全と云える場所はない。

* 「原子力の平和利用」の。。。危険は、今のところは原子力の利用が統計にも現れないほどの小規模であるとはいえ、我々だけではなく、子々孫々にまで悪影響を及ぼすという点なのである。本格的な動きはこれからのことであるが、その規模たるや人々の想像を超える。

Science Policy Reports

Eiichiro Ochiai

Hiroshima to Fukushima

Biohazards of Radiation

 Springer

＜広島＞
広い島＝地球
を
＜福島＞
幸福な島
＝地球
に

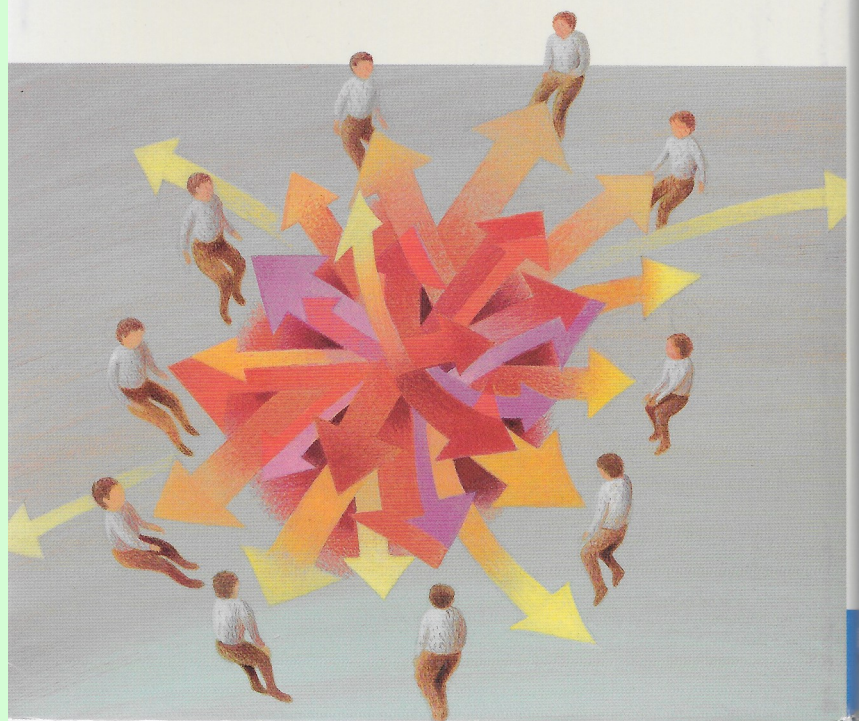
(Springer
2013年発行)

BLUE BACKS

放射能と人体

細胞・分子レベルからみた放射線被曝

落合栄一郎



前記の “Hiroshima to Fukushima” の 日本語版的なもの

(講談社
2014年発行)

落合栄一郎 著

放射能は 人類を滅ぼす

放射性物質は
存続し続け、
地球上の生命を
蝕み続ける

地球上の生命の
大絶滅期

「放射能安全神話」
の誤りを検証